

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会
2	日時	平成21年8月28日(金) 午後3時から5時まで
3	会場	上田市役所本庁舎 6階大会議室
4	出席者	日端委員長、龍野副委員長、伊藤委員、成沢委員、山崎委員、小池委員、寺島委員、 岡村委員、西澤委員、浦委員、竹花委員、小川委員、柄沢委員、田中委員、桜井委員、 清住委員、竹内委員、宮下委員、宮本委員、【欠席委員】美山委員、土本委員、 山浦委員、関口委員、森委員、山岸委員、
5	市側出席者	母袋市長、石黒副市長、小山教育長、大澤政策企画局長、小市教育次長、 宮川政策企画課長、中部文化振興課長、中山公園緑地課長、清水都市計画課長、 伊藤交流・文化施設建設準備室長、近藤政策企画課政策企画担当係長、 若林建築課建築担当係長、室賀交流・文化施設建設準備係長、徳田主査、
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者8人	記者5人
8	会議概要作成年月日	平成21年9月1日

協議事項等

1	開会 (大澤政策企画局長)
2	委員長あいさつ 前回出された意見を基に検討結果報告書(案)を作成、これを一度各委員に配布し、それに対してさらに意見が出されている。前半はこの内容を議論し、後半は報告書全文を確認し内容を確定したい。
3	議事 (1) 検討結果報告書(最終報告書)のまとめについて 事務局：(資料2説明) 委員長：まず報告書(案)P.7の大ホールに関して、客席可変装置により席数を十分可変できるのであれば、小ホールは平土間式でも良いのではないかとの意見だが、極端な可変は不可能ではないか。 委員：一回の入場者が500~1,000人程度という利用が多いと思うが、それらを可変装置で対応できるか心配。それから、1,500席と1,700席では建設費が約3億円も異なるため、さらに装置を取り入れるよりは、最前部の座席を2列程度取り外して対応させるような方法もあると思う。ただ、この意見に固執しているわけではないので・・・。 委員長：大ホールを小ホールに可変することはできないため、原案どおりが良いのではないか。 委員：(賛成) 委員長：次に小ホールに関して「小ホールは利用目的によって、舞台や座席などが大きく異なり、魅力的な施設とするためには、利用目的の明確化と一定の性能を有した施設建設が求められる」旨の文章を追加すべきとの意見。小ホールについては前回の会議で、音楽的な利用が多いという想定で、音響性能の高い固定席という形にまとまったわけであり、ここであえて付け加える必要は無いと思う。もし入れるのであれば、「大きく異なり」を「異なることもあり」程度にしてはどうか。つまり「利用目的によっては配慮が必要」と、そういう表現はどうか。意見をいただきたい。 委員：(なし) 委員長：とくに意見がなければ、原案どおりでよろしいか。 委員：(賛成) 委員長：それから同じく小ホールについて「最新型平土間可動席にした場合、耐久性やメンテナンスに難点が生ずる恐れが多いことなどが、検討委員の視察の結果判明した」旨の文章を追加すべきとの意見だが、これも小ホールについては冒頭で固定席とするという記載があるため、あえて平土間可動席について記載する必要は無いのではないか。議論も終わっているものと思うがどうか。 委員：大ホールについては論理的に説明されているため、小ホールについても、もう少し説明を加えた方が良いと思う。冒頭部分の「固定席」の結論に対して、後半部分でその理由を加えたい。 委員長：私としては、小ホールのあり方について、説明不足という面は無いと感じているが・・・。 委員：私は原案のままで良いと思う。小ホールの座席については、この委員会で様々な視点を加味し

て検討した結果、音響に配慮した固定席になったと思う。だからあえてここで平土間や可動席の例を持ち出す必要は無いのではないかと。固定席となった理由を聞かれた際には、その説明が必要かもしれないが、報告書の中には書く必要は無いと思う。

委員：(賛成)

委員長：次に P. 8 の美術館に関して「郷土作家」という表現は「郷土出身作家、郷土に深いかかわりを持った作家」といった表現に変えるべきという意見。

委員：「郷土作家」ではくくりきれないという意見をいただいたため、私の方から提案した。

委員：例えば石井鶴三について、彼は郷土出身ではなく、郷土に深く関りのある作家だと思っており、そのような表現が良いのではないかと。

委員長：それではここは表現を修正したい。それから次に P. 11 の運営管理の方向性について「1 施設の運営管理」と「2 エリアマネジメント」の順番を入れ変えてはどうかという意見だが、エリアマネジメントというのは交流・文化施設だけではなく JT 開発地全体、あるいは地域の活性化など広い視点での提案であり、私はこのままの方が良いのではないかと。

委員：(賛成)

委員長：次は P. 12 の運営・管理経費に関して「運営・財政・管理面は重要課題であり、真摯に取り組むことが必要である」旨の文章を追加すべきとの意見。

委員：これはあえて報告書に記載しなくても良いが、市長に報告書を提出する際に、委員長から口頭で、合併特例債やまちづくり交付金の活用にも触れながら提案してもらいたい。

委員長：文章を追加するのであれば、前段にも同様の記載があるため内容が重複するように感じる。それから、この次の意見に関しても、合併特例債やまちづくり交付金については、あえて報告書に書くべきではないように感じるがどうか。

委員：(賛成)

委員長：それから最後に「おわりに」が少し長いのではないかと。これは皆さんの思いが凝縮されており、内容としても重要なため長くなっているが、このような形で良いのではないかと。

委員：「はじめに」と同じく、一部をゴシック体にすればどうか。

委員長：多くの内容が詰め込まれており、細かく項目で分けると却って分かりにくくなるのではないかと。

委員：(賛成)

委員長：それでは、美術館の「郷土作家」の表現を修正し、その他の内容は原案どおりでよろしいか。

委員：(賛成)

事務局：修正部分を含めこれから全文を読み上げて提案する。内容の確認をお願いしたい。確認後は休憩を挟み、検討結果報告書を市長に提出されたい。(全文提案)

委員長：それでは、文案としてはこれでよろしいか。

委員：文章としては良いが、読点が数か所抜けている。まず P. 4 「◎交流」の 6 行目の「また」の後に読点が抜けている。続いて P. 8 「3 美術館」3 行目の「展示室は」の後、同じく 9 行目の「市民ギャラリーは」の後、「4 交流施設」の「エントランスホールは」の後、P. 9 「5 市民緑地・広場」4 行目「芝生広場は」の後、最後に、14 行目「千曲川と上田城との連続性を意図し」の後にもそれぞれ読点が抜けているので修正すべきではないか。

委員：「おわりに」の冒頭部分だが、「検討委員会では、私たちは常に」と、主語が二つ続いているため、「検討委員会では常に」が良いのではないかと。

委員長：これは「検討委員会という場で、私たちは」という意味ではないか。細かい部分はいくつかあると思うが、私が気になった点は、P. 10 の表 1 の表題に「など」はいらぬのではないかと。次に、表内下部の「公共利用全体」という言葉は全体の敷地面積が指しているため「全体用地」が良いと思う。それから、P. 11 「エリアマネジメント」の 4 行目「最大化、効率化、そして市民への～」とあるが、文章的には「拡張機能と効率化を図ること」という表現が良いのではないかと。これは例えば、美術館の展示を交流施設で行うなどの拡張的な利用を意味しており、こうした可能性が「最大化」という言葉になっているが、少し意味が分かりにくいと思う。それから、非常に細かい事だが、P. 12 の表 2 下部の「平成以降」は「平成元年以降」ではないか。

委員：報告書の内容については全く賛成だが、今後の進め方について要望したい。市での整備基本計画策定後、設計者の選定に際して、これだけの市民の思いをいかに具体化するか、これは設計者の力に掛かっており「会社を挙げて取り組む」という姿勢を持った設計者を選んでもらいたい。

事務局：今後の予定について確認したい。本日検討結果報告書をいただき、市としてはこれを受け、この秋季を目途に整備基本計画を策定したい。設計者の選定方法については、まだ未確定だが、様々

な手法があるため慎重に検討したい。いずれにしても、期をとらえて、市民の皆様の意見をいただきながら進めてまいりたい。

委員長：よろしいですか。

委員：(了解)

事務局：それでは、ここで暫時休憩としたい。

(休憩)

事務局：先程の議論を踏まえ、事務局で責任を持って修正、訂正を行った。今日は市への提出分、正副委員長分として合計3部作成したが、各委員には後日改めて送付したい。

事務局：昨年8月1日の第1回検討委員会開催以来、17回の検討委員会、7回の専門委員会、3回の部会が開催され、本日「JT開発における交流・文化施設のありかた検討結果報告書」をまとめていただいた。日端委員長から、検討結果報告書を母袋市長に提出されたい。

委員長：「上田市長、母袋創一殿。交流・文化施設等整備検討委員会では、JT開発地における『交流・文化施設』及び『市民緑地・広場』の整備内容について、平成20年8月1日に第1回検討委員会を開催して以来、専門委員会を含め27回の会議を行い、様々な角度から議論・研究してまいりました。それぞれの委員も熱意を持って取り組んだ結果、施設の理念と目標、整備方針、運営・管理の方向性、建設にあたっての留意点などについて、別冊のとおりとりまとめましたので、ここに報告いたします。」なお、今回、交流・文化施設という複合型施設を、JT開発地全体を含めた都市計画の中で、上田地域の活性化や文化の向上のために整備されることと思うが、同時にこれだけの施設を運営していくためには、運営管理上、様々な課題が生じてくるものと思われ、それらに対し十分配慮してほしい。この点を付け加えて検討結果報告としたい。

市長：検討委員会での1年間の熱い議論の結果がこの報告書であると思う。ここでは市としての文化に対する姿勢が問われており、文化・芸術・芸能の拠点作りを通して東信地域のみならず県下にその名を轟かせる施設として、また後世を担う子どもたちへの配慮という面でも取り組んでまいりたい。JT開発地は民間との協働の中で「環境」に配慮したゾーンとして計画しており、検討委員会からも、周辺地区やまちのつながりを総合的に計画する「エリアマネジメント」という概念が示される中、市も知恵を絞って整備基本計画を作り上げていく。一方で、市民の皆さんから期待の反面として財政上の懸念もいただいております、これらも視野に入れながら作り上げていく、その結果が「文化都市」、「文化創造都市」であると思う。先程委員長から運営管理面の話が出されたが、今後も適切な時期と状況において準備を進めてまいりたい。検討委員におかれては、今後も温かい目で見守っていただき、状況によってはアドバイスもいただければと考えている。私たちの決意の意味も含めて、一言御礼に代えたい。長い間ありがとうございました。

4 閉会（大澤政策企画局長）

ありがとうございました。それではこれもちまして、交流・文化施設等整備検討委員会を閉会いたします。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。